

高校生、研究成果堂々と

体育科や総合学科など、特色のある県立高校で学ぶ生徒たちの発表会のシーズンがピークを迎えている。授業で学んだスポーツ理論を基に自らの仮説を証明したり、キャリア教

育を通して働く目的について考えたり。生徒たちはパワーポイントなどを使うなど、自らの考えを分かりやすく伝えていた。

(社会部・下里潤)



授業で学んだ成果を発表する陽明高校の生徒たち＝浦添市、アイム・ユニバースてだこホール

プラごみ削減事例紹介

陽明高・総合学科

陽明高校（宮城哲夫校長）総合学科の授業実践発表会が

1月26日、浦添市のアイム・ユニバースてだこホールであ

った。県内企業の研究やSDGs（持続可能な開発目標）

などについて、生徒たちが調べた成果を発表した。

1年生グループは、県庁や県内企業の業務内容や理念などを研究した。「何のために働くのか」と自身に問い、社会

活動を稼ぐだけでなく、社会

3年生グループは海のプラ

貢献や人とのつながりが大切だということに気が付いた」と話した。

2年生グループはSDGs

について調べた。校内で購買

弁当の食べ残しが捨てられて

いる現状を調査し「フードロ

スを減らすため、量を減らしたヘルシー弁当を業者に提案

したい」と話した。性のボー

ダーラインをなくす取り組みも発表した。

スティックごみなどについて探究。削減に向けた国内外の取り組みを紹介し「身近なところ

ろから問題解決に取り組めるよう主体的に行動したい」と強調した。

陽明高等支援学校の作品展も同校内であり、手提げ袋や木工作品などを展示した。総合産業科1年の山城アレック

ス努さんは「木材をのこぎりで切って組み立てるのが楽しかった」、同じく1年の伊礼賢央さんは「先生からのアドバイスがあつて、やつとでき」と感想を述べた。